

酪農学園大学

# 出会い

No. **74** 2016. 4. 6

キリスト教教育委員会



春の黒澤西蔵像（浦川利幸氏撮影）

気がつけば必要は満たされていた 宗教主任 榮 忍

「史上最弱のヒーロー」

獣医学類 獣医倫理学研究室 准教授 高橋 優子

必然としての「出会い」

循環農学類 作物学研究室 教授 義平 大樹

## 気がつけば必要は満たされていた

宗教主任 榮 忍



### 歩みを振り返って

2015年の後学期から、大学の宗教主任を兼務することになった。高校の校長という責任を担いながら、いったいどれほどのことができるのか迷いつつも、「受け入れ難い状況が示されたなら受ける」ことを選んだ。批判が多いことも想像に難くない。新年度も大学礼拝を通して共に歩むことになる。よろしく願いますと共に、個人的なことになるが、ここに至った背景について記しておきたい。

両親ともに牧師であり、その最初の赴任地であった奄美大島で生を受けた。敗戦後8年間の占領が解かれ、復帰してから「自分たちの教会を建てたい」との地元クリスチャンの願いがあった。しかし、牧師がなかなか与えられず、新卒の父に声がかかり、決まった任地と聞いている。

父は障がいを抱えていた。吃音、いわゆる「どもり」である。リラックスしているときには問題は無いが、緊張すると一切声が出せなくなるタイプの吃音だった。このことが、神学校の入学を一年先送りにされ、卒業時に神学校が責任を持って推薦紹介できる教会がないという状況の原因だったのだろう。しかしまた、「障がいがあるゆえ

に導かれた出会い」でもあった。「ここにいてくれる人が必要だ」との思いがあったのだ。この父の下で、「なぜ言葉を語ることに困難を抱える者が、言葉を伝えることを職としたのか」という問いが起り、自らの課題として追求した息子は、父と同じ職を目指した。酪農学園に勤める前は、小さな教会の牧師だった。そこに10年勤めた区切りの年、次の10年への展望を描こうとしていた矢先に飛び込んできた招きだった。

神が与える使命は「教会に仕えること」だと確信していた自分にとって、「学校勤め」は想定外のものだった。それでも、高校の宗教主任として11年、教会に戻ることを探れないかと思ったときに、校長職を担うこととなった。ついには、校長9年目の途中からこの兼務である。普通はありえないだろうし、自分で願ったものではない。できれば避けたい道が示され、神によって避けられなくされた、と今は思う。

かつて勤めた教会は、20名程の教会員の多くが引退した高齢者という小さな教会で、当時は牧師館を購入した借財1200万円を抱えていた。全国の教会に支えられたこと、バブル経済の真っ只中にリゾート地の結婚式場と関わり、牧師派遣費として借財の返済に用いることができたこと、一つ一つが

人の思いを超えて整えられたものであったと受け止めている。借財の返済を終えたところで、酪農学園に転じ、ほぼ時を同じくしてバブル経済がはじけた。結婚式場も最盛期と同様の運営ができなくなった。必要な部分を必要なだけ満たされたのは不思議なことだ。追い詰められるような課題があるときに、いつもこの経験を思い起こす。

自分の力量を超えたことも、結果的に整えられてきた。聖書の言葉には、「神は、あなたがたが耐えられないような試練は与えないばかりか、試練と同時にそれに耐えられるように、逃れる道をも備えてくださる」(1コリント10章)という言葉がある。多くの困難が襲いかかり、押しつぶされそうになるときも、神に与えられる試練であるならば、道は開かれると信じるのである。

## 言葉を交わしつつ

目の前に起こる事柄が、本当のところ何を指しているのかをその瞬間に見抜くことは大変なことだ。言葉にこだわるが、人間の特徴として「言語を操ること」が挙げられる。適切に言葉と向き合うことが、求められる。時にそれは、発せられた言葉の裏を読むことも求める。ストレートに言葉と向き合うことが必要だと思うのだが、言葉に込められた思いとか、言葉使いとか、真意を知るために解釈を必要とすることがある。すれ違いとならぬようにするために、助けとなるのは「会話」である。語り合うことで、余分な思いがそぎ落とされて核心に迫ることに

なる。会話の技量を上げるためには、「問いを持つこと」、「問いを磨くこと」が不可欠で、次第に鍛えられていく。

キリスト教の中では、「祈り」は神との会話である。身の回りに起こる出来事を語り、感情や願いを伝え、与えられた恵みを数えて感謝する。神からの応答がどのように示されるかは、定式が無い。あるときにふと気づくと、いつの間にか整えられている現実を見出すことがある。願いどおりではなくとも、深いところで応えられていることを感じることもある。そこに、祈りへの神の応答があると受け止めると、世界の見え方も変わる。

イエスの問答にも、問われた事柄に問いで返し、相手の懐に入り、考えの底の部分に迫っていくものが残されている。2015年度最後の大学礼拝奨励で触れた「良いサマリア人のたとえ」(ルカ10章)がそれだ。ぜひ、新約聖書を紐解いて読み、味わってほしい。「自分の隣人としてふさわしい人をどう見分ければよいのか」と問う者に、「あなたが出会った人の隣人となるように行動せよ」と求めている。

わたしたちは、祈りにおける会話を通して神との関わりを整え、「出会い」を通して互いに隣人となっていく。さらに、働きを通して大地に根付く道を探り、三愛精神を体感していくのではないだろうか。この学園の中でのすべての経験が、それぞれの成長のために用いられるように、目に見えぬ大きな力が、それぞれに関わっていることを感じ、祝福された学生生活の基盤となるように、と願うのである。

## 「史上最弱のヒーロー」

獣医学類 獣医倫理学研究室 准教授 高橋 優子



ご入学おめでとうございます。酪農学園大学はキリスト教に基礎を置く大学です。今までキリスト教にふれる機会がなかった人も多いと思いますが、基礎から学びますので心配はいりません。ちなみに「キリスト」というのはギリシア語で「救い主」という意味です。ヘブライ語では「メシア」という言葉が同じ意味を持っています。イエス・キリストについてイメージを持ってもらうために、アンパンマンと比較してみたいと思います。

皆さんは『アンパンマン』という作品を知っていると思います。作者のやなせたかし氏は数年前94歳で亡くなりました。やなせ氏が亡くなったとき、新聞には「敬虔なクリスチャンである」と紹介されていましたが、実はそれは間違いだったようで、一部の新聞は後に訂正記事を出しました。それではやなせ氏はなぜクリスチャンだと思われていたのでしょうか。それは、アンパンマンというキャラクターがとてもキリスト教的だから、もっと言えばイエス・キリストにとっても似ているからだと思います。どのようなところが似ているのでしょうか。それは、アンパンマンが、作者の言葉を借りると「史

史上最弱のヒーロー」であるところです。『アンパンマン』にはもともと悪役は存在しませんでした。バイキンマンは後から作られたキャラクターです。普通のヒーローの主な仕事は、悪者をやっつけて滅ぼすことです。戦隊ヒーローものやウルトラマンやスーパーマンを考えれば、すぐわかると思います。でもアンパンマンの主な仕事は、おなかをすかせた人に自分の顔を与えて食べさせることなのです。もちろんバイキンマンとの戦いのシーンはアニメでは毎回出てきますが、アンパンマンにしてもバイキンマンにしても、相手を完全に滅ぼすところまではいきません。アンパンマンは、顔が汚れたり顔がぬれたりすると、とても弱くなってしまいます。「顔をつぶす」とか「顔に泥を塗る」といった表現がありますが、アンパンマンはまさに顔をつぶされ顔に泥を塗られる経験をします。それどころか、他の人のために「顔」を与えてしまいます。彼は自分だけが犠牲を払い、それに満足するという無私で弱いヒーローです。

「アンパンマンのマーチ」に出て来る作者の作った歌詞は重要です。とくに「愛と勇気だけが友だちさ」というフレーズです。作者によると、他の人を巻き込まず、自分だけが傷ついて、人を助

けるというアンパンマンのポリシーを表しているそうです（やなせたかし著『わたしが正義について語るなら』）。これは正義とは、必ず自己犠牲を伴うということを念頭においています。

イエス・キリストもアンパンマンのようなキャラクターです。「救い主」といえば、正義の味方、みんなを救ってくれるヒーローを思い浮かべます。でも、旧約聖書のイメージは、スーパーマンのようなものではありません。旧約聖書のイザヤ書には「見るべき面影はなく、輝かしい風格も、好ましい容姿もない」と書かれています。カッコいいルックスではないのです。そして病気や痛みを知っていたとも書いてあります。ただ強いだけのヒーローではないのです。そのメシアは、さらに人々の痛み、病気を背負います。新約聖書でイエスは十字架にかかって人々の罪を背負って死にます。自分の罪ではないものを背負う、というのはつまり、かわって罰を受ける、犠牲を払う、ということです。それがイザヤ53章にある、来るべきメシアの姿なのです。アンパンマンは死にませんが、イエスは十字架で死にました。その意味ではアンパンマンよりも弱いヒーローです。でも新約聖書によると、イエスは復活しました。アンパンマンは死なないので復活しませんが、新しい顔を作ってもらおうと力を回復します。イエスの物語は、アンパンマンと重なりながら、アンパンマンよりもっとふり幅の大きいものになっています。

つまりイエス物語はアンパンマン物

語の原型をなしているのです。言いかえれば、イエス・キリストはアンパンマンの先輩ヒーローだということです。そのヒーロー像は、カッコいいものではなく、言葉どおりの意味でも抽象的な意味でも「顔をつぶされ」、自分だけが傷つき、弱さを経験しながら、他の人を救うというもののなのです。アンパンマンは誕生したとき大人用のお話でしたが、大人にはこのお話は受けなかったそうです。後に絵本で描いたときも、大人からは「頭を食わせるなんて残酷だ」というようなクレームばかり来たそうです。でも、子供たちはこのお話がとても好きになりました。アンパンマンの絵本は幼稚園や保育園、図書館などで大人気になり、何度買い直してもボロボロになるほどでした。つまり、純真な幼児の心をガッチリつかむお話だったわけです。イエス・キリストは新約聖書で「幼子のように素直でなければ神の国には入れない」と言ったとされていますが、これはまさにアンパンマンのストーリーを幼子が受け入れたことと重なります。

酪農学園大学に入学した皆さんは、キリスト教を勉強することになっています。それに抵抗を感じる人たちもいるかもしれませんが、でも、幼子のように偏見のない目で聖書を勉強すると、重要なことが見えてくるかもしれません。皆さんがこの大学で生涯の友や師と出会うと同時にキリスト教精神との良い出会いも経験できるよう願っています。



## 必然としての「出会い」



循環農学類 作物学研究室 教授 義平 大樹

**出会いは、偶然ではなく、必然としてとらえた方が積極的な生き方ができる**

循環農学類の義平大樹と申します。専門は作物学です。入学おめでとうございます。皆さんは、これから多くの人に出会うことでしょう。アドバイザーの先生、クラスメイト、数々の講義の先生、サークルや寮の先輩など……。これらの出会いを偶然と考えるか、自分の命は授かったものであり、その中で出会いも与えられたもの（必然）だと考えるかです。「ここで出会うのも何かの縁」という言葉があるのもこの事を表しています。これは個々人の人生観であり、強制されるものではありません。しかし、私は最近、出会いは必然と考えた方が積極的な生き方ができるのではないかと考えております。すべての出会いを必然とするのは難しいとしても、尊敬できる人、親密になった友人、講義やゼミなどで自分の担当になった先生方などの出会いは、必然と考える方が積極的な生き方ができると思うのです。これを強く思ったのは、知的障がいを持つ2人の息子を授かった経験をしたからです。

**知的障がいを持つ2人の息子に「出会いは必然であること」を教えられた**

学生時代、街で障がい者を見かけても自分とは関係のない世界と傍観しておりました。ところが、結婚して生まれてきた息子が2人も、知的障がいを併せ持つ自閉症児だったのです。人間が障がいを持って生まれてくる確率は500人に1人とも言われていますが、単純に計算すると、2人の子供が連続して障がいを持って生まれてくる確率は25万分の1となります（医学的には兄弟発症率は確率以上に高くなる）。何故、自分だけが25万人の1人なのか。自分自身を納得させる人生上の理由を模索し続ける日々が数年続きました。先端医療でもし自閉症に関する遺伝様式が分かっているのなら、私と、私の妻のDNAを調べてもらいたいとも思っていました。

私の趣味はマラソンなのですが、そのマラソン仲間でライバル的な存在の人がいます。彼の娘さんが生まれながらの難病で、彼とその奥さんのDNAを調べてもらった所、両人ともその難病が発症する遺伝子を持っていて、「(遺伝的には劣性ホモで発症するので) 僕たちの間に生まれた子は4分の

1の確率で発症することになる。娘が1歳になった時、医師から人工呼吸器をつけて存命させるか、安楽死させるかの選択をせまられたけど、夫婦一致して安楽死の選択など考えられなかった」と聞きました。私は、「ハッ」とさせられました。私は、私の息子でさえ、出会いは偶然、確率論的なものだとしか捉えていなかったのです。今から思うと2人の息子に大変失礼な事をしたと、謝りたい気持ちで一杯です。

### 「出会いは必然であること」を他の先生からの言葉が後押ししてくれた

これら息子たちの将来を本気で考えるのなら、「神様が何らかの役割を私たち夫婦に与えるために、障がいのある2人の息子を与えてくださった」と考える方が積極的に生きることができると、長男が10才になった時ようやく気づきました。この事をさらに強く確信を持つきっかけは、学内の尊敬できる2人の先生がクリスチャンで、その先生たちから紹介された聖書の以下の言葉でした。この時私は「自分の人間性の小ささ」を再度自覚すると同時に、救われた気持ちになりました。「さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。弟子たちがイエスに尋ねた。『ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。』イエスは

お答えになった。『本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。』」（ヨハネ福音書9章1-4節）

### 自分を向上させる視野から、出会いを求めると、積極的な大学生活となる

皆さんもサークル、寮、講義、研究室や家族内の人間関係、恋愛関係などなど・・・多くの人との出会いに関する青春らしい悩みに出くわすことでしょう。中には相性の良くない人もいるかもしれません。しかし、その出会いには何らかの学びがあるはずですよ。1つ1つの出会いを一時的なものと考えのではなく、自分の命は授かったもので、大学生でいられることに感謝し、その中での出会いはかけがえのないものだと思えることが、大学生活を充実させるポイントの1つであると思います。特に、「自分はこの分野に関心がある」、「この技術を高めるために良き指導者に会いたい」などと積極的に求めていった出会いや、「自分と目標が近いライバル的な存在」との出会いは、自分の人生に強く影響を与える場合が多いです。みなさんが1つ1つの出会いを大切に、自分からその人なりの目標や悩みにそって出会いを求め、積極的な大学生活を送られることをお祈りしております。（この言葉を自分に言い聞かせるとともに、入学生の皆さんにもお伝えいたします。）

## 大学礼拝の案内

本学はキリスト教精神に基盤を置く大学として、創立以来60年以上大学礼拝を大切にしてきました。授業期間中の毎週火曜日の2時限（午前10時40分～12時10分）は大学礼拝の時間に充てられており、学生、教職員の誰しもの出席できるように、この時間には授業等が入らないように配慮されています。大学礼拝は建学の精神である「三愛精神」（神を愛し、人を愛し、土を愛する）を経験してもらう実学教育の場として設定されています。悩みや心配なことがあるときは特にこの場で心を静め、リラックスしたりリフレッシュしたりできるひとときを過ごしてもらいたいと願っています。



2015年12月22日(火)の大学礼拝  
(大学クリスマスコンサート)

## あ と が き

昨年春に着任したため『出会い』を作るのははじめてであった。執筆者の先生方に連絡をとる回数が少なかったかもしれないと反省している。それでもお忙しい先生たちが協力してくだ

さり、無事第74号ができあがった。先生たちの新生生に対する愛と期待が感じられる内容となっている。その愛の源が、イエスの愛であることが学生たちに伝わるよう願うものである。(高橋)

酪農学園大学キリスト教教育委員会  
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地  
Tel. 011-386-1111 (代表)